

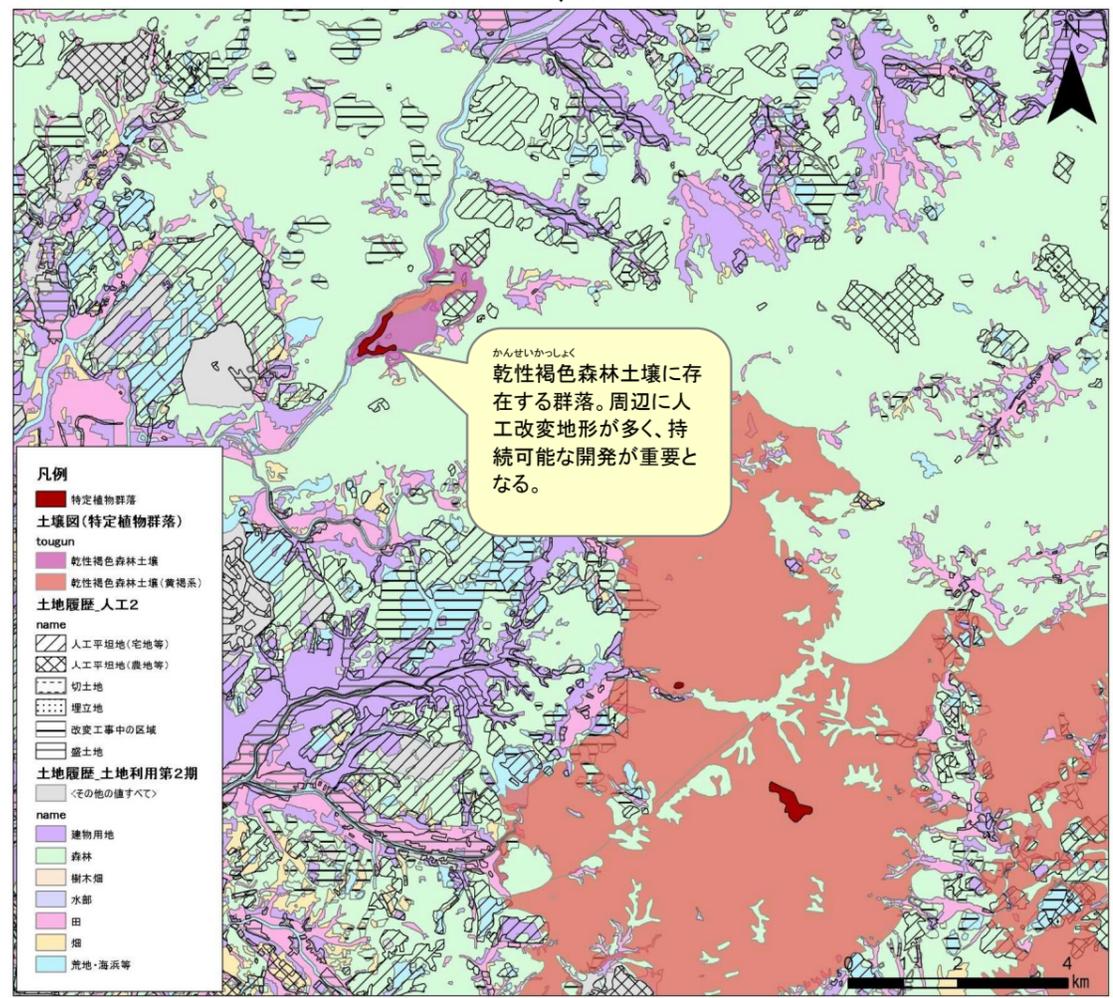
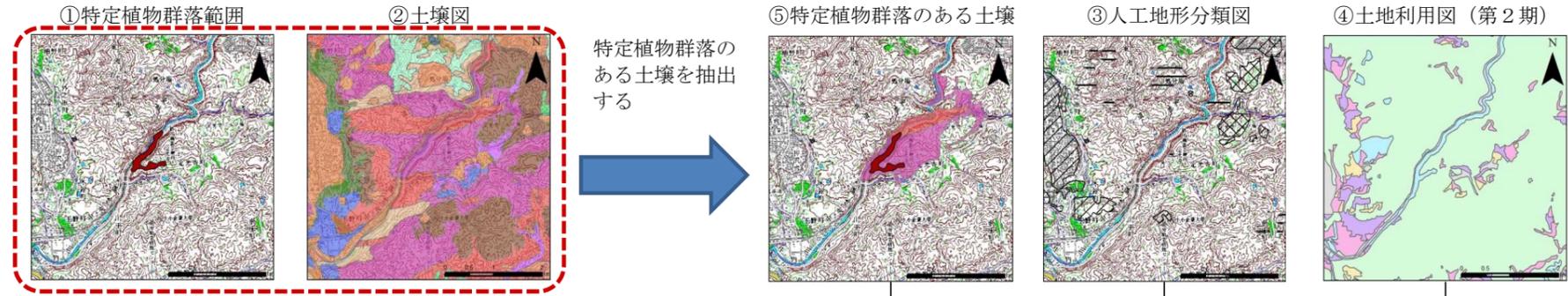
# 土地分類調査成果の活用事例 6

事例名	特定植物群落の調査資料	分野	環境分野
-----	-------------	----	------

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図50000（地図画像）を使用した。（承認番号 平成29情使、第1276号）

使用するデータ 使用図幅： 5万分の1「瀬戸」	<ul style="list-style-type: none"> <li>●国土交通省：5万分の1土地分類基本調査GISデータ（土壤図）</li> <li>●国土交通省：土地履歴調査データ（地形分類図）</li> <li>●国土交通省：土地履歴調査データ（土地利用分類図第2期）</li> <li>●環境省生物多様性センター：特定植物群落調査（第2・3・5回）</li> <li>●数値地図50000（地図画像）：「瀬戸」</li> </ul>	<a href="http://nrb-www.mlit.go.jp/kokjo/inspect/landclassification/download/index.html">http://nrb-www.mlit.go.jp/kokjo/inspect/landclassification/download/index.html</a> <a href="http://nrb-www.mlit.go.jp/kokjo/inspect/landclassification/land/land_history_2011/pdf_detail.php?areaid=15">http://nrb-www.mlit.go.jp/kokjo/inspect/landclassification/land/land_history_2011/pdf_detail.php?areaid=15</a> <a href="http://nrb-www.mlit.go.jp/kokjo/inspect/landclassification/land/land_history_2011/pdf_detail.php?areaid=15">http://nrb-www.mlit.go.jp/kokjo/inspect/landclassification/land/land_history_2011/pdf_detail.php?areaid=15</a> <a href="http://www.biodic.go.jp/kiso/fnd_f_12.html">http://www.biodic.go.jp/kiso/fnd_f_12.html</a> <a href="http://www.jmc.or.jp/">http://www.jmc.or.jp/</a>
-------------------------------	--	---

上記URLは平成30年2月現在



**凡例**

■ 特定植物群落  
 ■ 土壤図(特定植物群落)  
 tougun  
 ■ 乾性褐色森林土壤  
 ■ 乾性褐色森林土壤(黄褐色)  
 ■ 土地履歴\_人工2  
 name  
 ■ 人工平地(宅地等)  
 ■ 人工平地(農地等)  
 ■ 切土地  
 ■ 埋立地  
 ■ 変更工事中の区域  
 ■ 盛土地  
 ■ 土地履歴\_土地利用第2期  
 <その他の値すべて>  
 name  
 ■ 建物用地  
 ■ 森林  
 ■ 樹木畑  
 ■ 水部  
 ■ 田  
 ■ 畑  
 ■ 荒地・海浜等

## 特定植物の保全対策図の事例

本資料中の説明は、あくまでも土地分類調査の調査データの活用事例を示したものであって、確定的な分析ではありません。ご使用にあたっては専門家のご助言等を頂いて下さい。

利用目的	環境省では保護植物の各種調査を行っており、調査結果の一部（植生調査や特定植物群落調査、 <sup>きよじゆ きよぼくりん</sup> 巨樹・巨木林調査など）はGISデータとして公開されている。しかし、植生をみの調査成果であるため、生育に関する土壤との関係や、生育環境への開発行為などの影響を把握することは難しく、保護行政や保全活動に関わる人々にとっては、更に情報収集が必要になると考えられる。5万分の1土地分類基本調査、土地履歴調査の情報に、特定植物群落の調査結果を重ねることで、特定植物と土壤の関係、特定植物と人工改変地や宅地との関係を可視化し、地域における環境保全対策のための基礎資料として活用する。
利用効果	無償公開されている情報を使うことで、ユーザーを選ばず誰もが資料を作成することができる。植生と土壤の関係を容易に把握することができるほか、植生範囲における人工改変の有無や、土地利用との関係を、地図上に判り易く可視化することができる。想定されるユーザーとしては、都道府県や市区町村の開発行為の許認可担当者、環境部門やまちづくり部門の担当のほか、民間の環境保護団体やNPO、ボランティアなどで、幅広く利用することができる。
作成手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境省の特定植物群落調査のデータは既にGIS化されており、Shapeファイル形式でダウンロードにより都道府県別に入手が可能。調査は複数回に分かれているので各回のデータを統合する。（①）</li> <li>●特定植物群落（①）と5万分の1土地分類基本調査成果の土壤図（②）のデータを重ねて、①の存在する土壤を抽出する。（⑤）</li> <li>●土地履歴調査成果より人工地形分類のデータを用意する。（③）</li> <li>●土地履歴調査成果より土地利用のうち昭和40年代のデータ（第2期）を用意する。（④）</li> <li>●③④⑤のデータを重ねて特定植物群落の保全資料を作成する。</li> </ul>
利用上の課題	環境省のデータは保全上慎重な取扱いが必要な植物群落は公開していない。調査の目的によっては、各都道府県の環境部門での調査結果などをGIS化する必要がある。土地履歴調査成果の土地利用は、昭和40年代の土地利用状況をデータ化しているため、最新の土地の現況を示しているわけではない点にも注意が必要である。